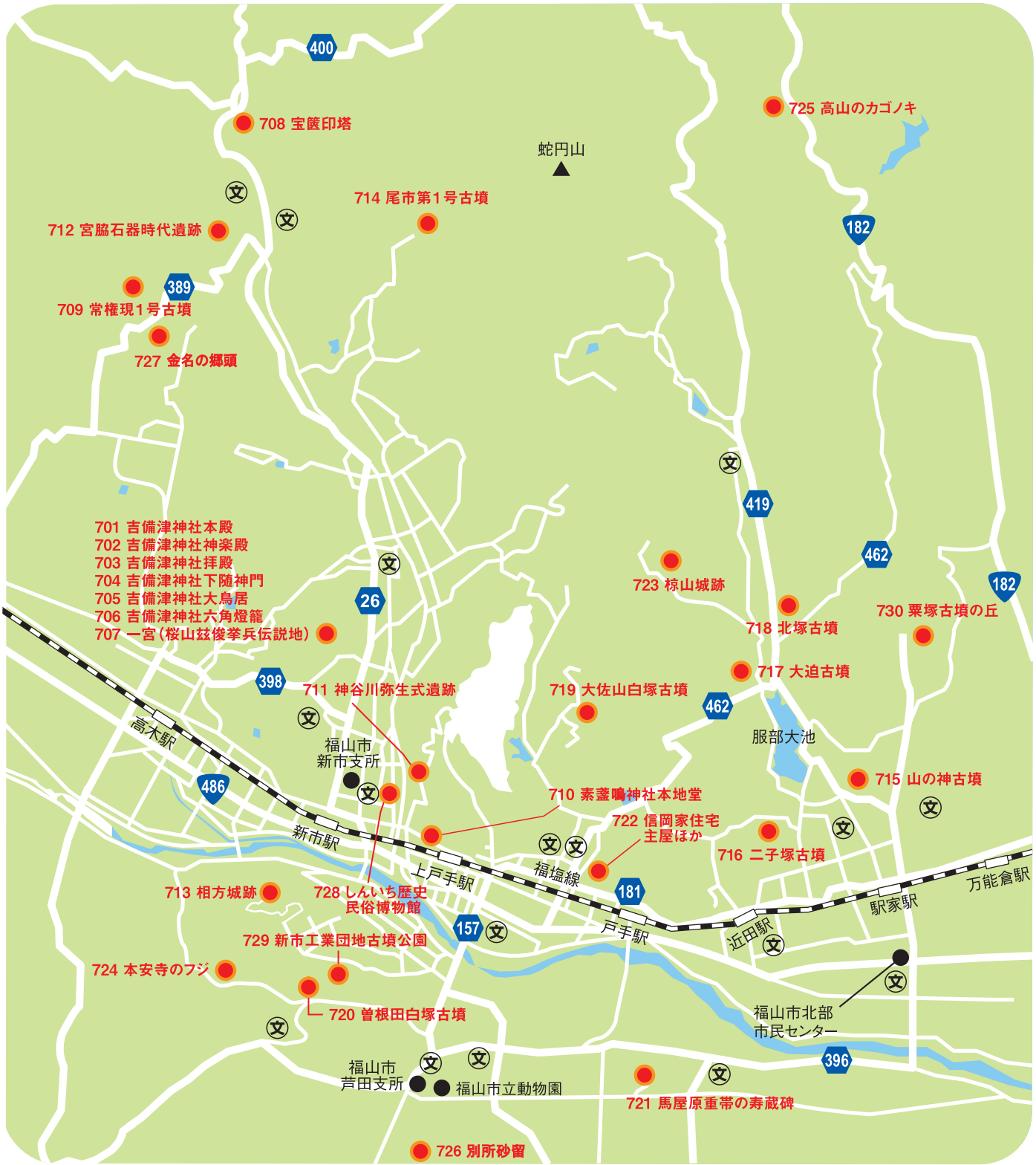
ほくせい

北西エリア

芦田川とその支流、神谷川、服部川などに沿った平野部から山間部に谷が切れ込み、北寄りは標高 500m 以上の山地になります。川沿いの平野部、丘陵には遺跡が集中しており、６世紀から７世紀にかけて、二子塚古墳をはじめとする後期古墳や大佐山白塚古墳、曽根田白塚古墳など特色ある終末期古墳が多くみられます。また、相方城跡や椋山城跡といった山城跡、吉備津神社の建造物なども特色があり、往時のにぎわいがうかがえます。

吉備津神社本殿



北西エリア

701　吉備津神社本殿

指定種別：国重要文化財
所 在 地：新市町宮内
（吉備津神社）
見学情報　P　WC
ＪＲ福塩線新市駅より
約 1.8km

1648（慶安元）年に福山藩主・水野勝成によって建て替えられた，全国的にも有数の規模の本殿です。向拝三間，正面千鳥破風，軒唐破風造りの江戸初期の建築ですが，室町時代の風格と桃山彫刻を備えた優美な蟇股(かえるまた)を備えています。高欄(こうらん)の擬宝珠(ぎほうじゅ）には「慶安元年」の刻銘があります。

702　吉備津神社神楽殿

指定種別：県重要文化財

本殿とともに 1648（慶安元）年に建て替えられたものです。本殿の前方に拝殿，神楽殿，随神門などを一直線に建て並べる様式は「一遍上人絵伝」などから鎌倉時代後期には成立していたことがわかり，描かれている建物も現在の形式と同じで，慶安の再建時に以前の建物を忠実に復元したと考えられます。当初は桧皮葺であった屋根を銅板で覆った以外は再建時のままの姿です。

703・704・705・706
吉備津神社拝殿・下随神門・大鳥居・六角燈籠

指定種別：市重要文化財

拝殿は，本殿などと同時期に建て替えられたもので，棟通りの柱３本は，1376（永和２）年再建の本殿の角柱を２本ずつ継いで転用しています。軸部や小屋組等は当初材が良く残っています。下随神門は大型の八脚門で保存状態も良く，建築様式では 18 世紀中頃と考えられます。大鳥居は高さ 5.8m，笠木の長さ 6.25m，柱直径 54cm，明神型鳥居で亀腹はなく，柱には「慶安元年」（1648）の銘があります。六角燈籠は高さ 2.9m，火袋は六角形で，窓は日月を表しています。本殿の再興を記念して，水野勝成が 1649（慶安２）年に寄進しました。吉備津神社境内にある記念銘をもつ石燈籠では最古のものです。

707　一宮（桜山慈俊（さくらやまこれとし）挙兵伝説地）

指定種別：国史跡

南北朝内乱の始まりとなった 1331（元弘元）年，鎌倉幕府の執権・北条高時を討とうとした後醍醐天皇は笠置山に籠って兵を募り，南朝方の楠木正成に呼応した桜山四郎入道慈俊は，一宮（吉備津神社）背後の桜山城を本拠として挙兵しました。一時は備後南部地域を従えますが，形勢が悪化し，一族郎党とともに一宮に火を放って自害しました。この伝説地として一宮周辺が指定されています。

708　宝篋印塔

指定種別：県重要文化財
所 在 地：新市町金丸

金丸の厚山（こうやま）にあり，塔の基礎には，1380（康暦２）年に，□宗禅定門（□は摩滅）という法名をもつ人物の 7 周忌の供養のために建てたという刻銘があります。康暦は北朝方の年号で，この地域の支配者層にかかわる造立と考えられます。他に２基の宝篋印塔があり，３基の宝篋印塔が一定の規格をもって建てられたことがわかります。

709　常権現（つねごんげん）第１号古墳

指定種別：市史跡
所 在 地：新市町常

直径 11m，高さ５mの円墳で，埋葬施設は現存長 5.8m，幅 1.8m，高さ 2.3mの無袖の横穴式石室です。墳丘背後には斜面を掘り込んだ周溝状の地形が観察できます。13 基が確認されている権現古墳群のなかで最大の古墳で，この地域における６世紀後半の古墳の姿をよくとどめています。

710　素盞嗚神社本地堂（すさのをじんじゃほんちどう）

指定種別：市重要文化財
所 在 地：新市町戸手
見学情報　P　WC
ＪＲ福塩線上戸手駅より
約 300m

現在は天神社の社殿ですが，もとは戸手祇園社の本地堂（観音堂）として建立されました。明治時代の廃仏毀釈の際，寺院建築の部分を撤去して神座を造り，本地堂としましたが，18 世紀前半の三間堂の外観がよく残っています。1998（平成 10）年に屋根の葺き替えや若干の修復を行い，外観は 1748（寛延元）年の再建時の姿に修復されました。

711　神谷川（かやがわ）弥生式遺跡

指定種別：県史跡
所 在 地：新市町新市
見学情報　P
ＪＲ福塩線上戸手駅より
約 600m

神谷川と芦田川の合流地点の北東側の丘陵中腹に位置する弥生時代後期の集落遺跡です。1947（昭和 22）年以来３回の発掘調査が実施され，出土した土器は「神谷川式土器」として，広島県東部の弥生時代後期土器の指標となっています。竪穴住居跡，炉跡，貯蔵穴などが見つかり，遺跡の下層からは縄文時代晩期の土器も出土しています。

712　宮脇石器時代遺跡

指定種別：県史跡
所 在 地：新市町常

神谷川右岸の丘陵端にある品治別神社境内にあり，縄文時代早期（10000 ～ 6000 年前）の土器や細石器が出土した遺跡として知られていますが，土砂崩れなどで撹乱された可能性があります。縄文時代早期の遺物は，押型文土器，撚糸文土器，無文土器，石鏃などがあり，安山岩製の細石核などは，旧石器時代終末とそれ以降の過渡的な様相を示しています。

713　相方城跡（さがたじょうあと）

指定種別：県史跡
所 在 地：新市町相方
見学情報　P
ＪＲ福塩線上戸手駅より約４km

芦田川南岸に面する標高約 190mの丘陵上に築かれた山城で，東西両側に曲輪群をもち，その間は幅約 30mの空堀です。東西の曲輪群とも打込接（うちこみはぎ）の総石垣で築かれ，瓦葺の建物があったと考えられます。相方城は，在地の領主によって築かれた山城を戦国末期に毛利氏が直轄城として石垣を用いて整備したとみられ，近世城郭への過渡的様相を示す遺跡です。

714　尾市（おいち）第１号古墳

指定種別：未指定
所 在 地：新市町常

３基の横口式石槨（せきかく）を３方に配置し，羨道を含めた埋葬施設の平面形が十字型になる国内唯一の古墳です。丘陵先端に単独で造られ，墳丘頂部の標高は 196mです。墳丘の裾には石列が残っており，10.7mほどの八角形とみられますが，背後側の角は不明瞭です。石槨の石は平らに加工されて，表面にも漆喰が塗られていたようです。７世紀後半の築造と考えられます。

715　山の神古墳

指定種別：県史跡
所 在 地：駅家町法成寺
見学情報
ＪＲ福塩線駅家駅より 1.5km

平野部の丘陵の先端に築造されており，前方後円墳と，直径 12m，高さ４mの円墳の二通りの見方があります。埋葬施設は南に開口する片袖式の横穴式石室で，側壁は四方から持ち送りになっています。玄室の規模は長さ 4.1m，幅 2.9m，高さ 3.3m，羨道の長さ 2.25m，幅 1.26m，高さ 1.25mで市内の横穴式石室のなかでも古式と考えられます。

716　二子塚古墳

指定種別：国史跡
所 在 地：駅家町新山・中島
見学情報　P　WC
ＪＲ福塩線近田駅より約 1.2km

墳丘長 68mの前方後円墳で，後円部は二段築成とみられます。埴輪や葺石はなく，墳丘のまわりには周溝が巡っており，東側から北側にかけては周溝の痕跡が観察できます。周溝を含む全長は 73mで，県内第４位，後期古墳では最大です。後円部と前方部に両袖式の横穴式石室があり，後円部石室は全長 14.9mで，墳丘の裾部から羨道の入口まで石積みの墓道が作られています。遺体を安置した玄室は，長さ 6.8m，奥壁部分の幅 2.1m，高さ 3.3mで，兵庫県産の竜山石製組み合わせ式石棺が解体された状態で見つかりました。玄室の前に付けられた羨道は，長さ 8.1m，玄室と羨道からは，双龍環頭大刀柄頭や馬具，須恵器，土師器など多くの副葬品が出土しました。前方部石室も全長 12.6m と長大ですが多くの石材を失っており，埋め戻しています。出土した須恵器から，今から 1400 年前，６世紀末から７世紀初頭頃の築造と考えられ，畿内以西で最後に造られた前方後円墳と考えられています。

717　大迫古墳

指定種別：県史跡
所 在 地：駅家町新山

大迫金環塚とも呼ばれる後期古墳で，墳丘は削平されていますが，巨大な花崗岩を使った両袖式の横穴式石室です。玄室は長さ 5.65m，幅 2.5m，高さ 2.7m，羨道は長さ 6m，幅 1.9m，高さ 2.1mで県内屈指の巨大石室です。須恵器高杯，金環などが出土しています。

718　北塚古墳

指定種別：県史跡
所 在 地：駅家町服部
見学情報
ＪＲ福塩線駅家駅より約 2.8km

丘陵の裾付近に位置し，埋葬施設の横口式石槨が露出しています。封土は完全に失われており，墳形は不明です。石槨は，底石，側石，蓋石を花崗岩の切石で組み合わせており，蓋石には家形石棺にみられる縄掛突起が，退化した形で一箇所だけ作られています。７世紀後半の終末期古墳として注目されます。

北西エリア

719　大佐山白塚古墳（しらつか）

指定種別：県史跡
所 在 地：新市町戸手
見学情報
ＪＲ福塩線戸手駅より約 2.8km

標高 188mの大佐山山頂付近にあり，一辺約 12mの方墳と考えられます。埋葬施設は切石を用いた横穴式石室で，玄室は長さ 3.7m，羨道は約４m，幅は 1.8mとほぼ一定です。玄室と羨道の間には立柱があり，鴨居状の石を架けて区切っています。築造は７世紀中頃と考えられ，同様の構造の石室は，大坊古墳（神辺町）や狼塚２号古墳（駅家町）にみられます。

720　曽根田白塚古墳（そねだしらつか）

指定種別：県史跡
所 在 地：芦田町下有地

久田谷の北側丘陵の頂上付近に築造された７世紀中頃の終末期古墳で，周辺に古墳は確認されておらず，独立して存在しています。墳丘は直径約９mの円墳とみられており，埋葬施設は花崗岩切石を用いた横口式石槨ですが，石槨部の底石を欠いています。石材の隙間にはわずかに漆喰が残っています。

721　馬屋原重帯の寿蔵碑（うまやはらしげよ　じゅぞうひ）

指定種別：県史跡
所 在 地：駅家町向永谷
見学情報
個人墓地の敷地内

重帯は 1762（宝暦２）年に向永谷村に生まれ，農業のかたわら学問にはげみ，自ら塾を開きました。備後一円の史書として著名な『西備名区』90 巻（県重文）をはじめ，備南の年中行事や風俗を記した『風俗問状答書』などを独力で編著しました。碑は 1831（天保２）年，重帯が 70 才の時に門人たちが業績をたたえて建立したものです。

722　信岡家住宅　主屋ほか

登録種別：国登録有形文化財
所 在 地：新市町戸手
見学情報
ＪＲ福塩線戸手駅より約 500m
敷地内非公開

信岡家は代々庄屋を務め，用水の開削など地域の開発事業にも指導的な役割を果たしました。2008（平成 20）年に，当地方の農家特有の形式を伝えている主屋をはじめ，東の蔵，西の蔵，炭小屋，茶室及び腰掛，井戸屋形，中門及び塀，長屋門の８件が国登録有形文化財として登録されました。

723　椋山城跡（むくやま）

指定種別：市史跡
所 在 地：駅家町助元・服部永谷

標高 170mの椋山山頂を本丸とし，四方に延びる 15 の郭と４本の空堀で構成された中世の山城です。築城の時期は不明ですが，資料では服部を所領とした桑原氏の本城であったと記され，中世末には廃城となっています。土師質土器，青磁破片，古銭など室町時代後半の遺物が採集されています。

724　本安寺のフジ（ほんあんじ）

指定種別：市天然記念物
所 在 地：芦田町
（本安寺境内）

フジはマメ科で，本州西部および四国，九州に自生しています。本安寺のフジは，約１mの範囲に大きな茎が５本出て，最大のものは根廻りが 40cm 以上です。花は藤色で房が長く，年によっては２mに達するものもあります。

725　高山のカゴノキ

指定種別：市天然記念物
所 在 地：駅家町服部永谷

カゴノキはクスノキ科の常緑高木で，樹皮が灰黒色となり，まだらに剥がれて白い鹿の子模様になります。高山のカゴノキは，地上2.3m付近で二つの幹に分かれ，さらに上に行くに従って次々枝分かれして巨樹となっています。

726　別所砂留

指定種別：未指定
所 在 地：芦田町福田

福田別所地区の砂留は昭和 30 年以降，山の樹木に埋もれて県の記録などにも記載はありませんでしたが，近年大小 36 基の砂留が見つかりました。土砂止形式や鎧積堰堤形式など様々な工法で築かれ，アーチ状堰堤や大型の物など江戸時代の土木技術の多様さを知ることができます。はっきりした築造年は不明ですが 1722（享保 7）年の記録には工事中の砂留の記録が，1764（宝暦 14）年には 13 基存在していた記録があり，少なくともこの年までには 13 番までの砂留が完成していたと考えられています。

北西エリア

727 金名（かんな）の郷頭（ごうとう）

指定種別：未指定
所 在 地：新市町常
見学情報 WC・東屋

金名川に築かれた水流調節用堰（ダム）。橋を兼ねており，府中市本山境の皆米峠に至る。構造は石積みで，上流に向かって張り出すアーチ式ダムであり，導水部は横穴式石室のような持ち送り構造で天井石が架かります。1840(天保11)年，子年の大水を引き起こした豪雨では，上流の権現池（現：切池）の堤防が決壊し，直下の野原池を押し流して土石流となりましたが，郷頭で食い止めて下流の村を守ったとの言い伝えが残っています。

728 しんいち歴史民俗博物館

所 在 地：新市町新市 916
見学情報 P WC ♿
ＪＲ福塩線新市駅より約 900m，開館時間／ 9:00 ～ 17:00 休館日／月曜休館（祝日の場合，翌日休館）・12/28 ～ 1/3 休館　臨休有　入館無料（特別展有料の場合有），☎0847-52-2992

福山市北西部の資料を中心に展示しており，宮脇遺跡，神谷川遺跡などの出土遺物も展示しています。備後絣の保存と活用にも取り組んでおり，染め体験もできます。（団体のみ，要問い合せ）

729 新市工業団地古墳公園

所 在 地：新市町相方
見学情報 P
ＪＲ福塩線上戸手駅より
約 2.5km

造成工事中に発見，発掘調査された後池第 17 号古墳を現地で保存整備した公園です。墳丘を盛りなおし，石室は失われた石を補って内部が見られる状態で復元しています。公園のモニュメントは，付近の潮崎山古墳出土の三角縁神獣鏡を模したものです。

730 粟塚（あわづか）古墳の丘

所 在 地：駅家町法成寺
（福山北部工業団地に隣接）
見学情報
ＪＲ福塩線駅家駅より
約 3.5km

工業団地造成に伴って発掘調査された，狼塚２号古墳と正福寺裏山１号古墳を移築し，もとからこの地にあった粟塚古墳群とともに整備した公園です。正福寺裏山１号古墳は，竪穴式石室で連弧文縁四獣鏡が出土した４世紀の古墳です。狼塚２号古墳は，玄室と羨道の間に玄門と梁をもつ横穴式石室で，７世紀の築造と考えられます。

福山市内の無形民俗文化財

二上りおどり

盆踊りの一種と考えられ，江戸時代には旧盆の８月 14 日から３日間，三味線の「二上り」を基調に胡弓を配した地方（じかた）に合わせ，頭に折笠や頬かむりをし，手に団扇を持ち，思い思いの踊りで三々五々組を作って練り踊ったもので，唄がないのが特徴です。踊りの起源は定かではありませんが，江戸時代中期ころに江戸詰めの福山藩士によって江戸から伝えられたと考えられます。現在はふくやま夏祭り（8 月 13 日～ 15 日）で盛大に踊られています。

801 二上（にあが）りおどり

指定種別：県無形民俗文化財
所 在 地：福山市丸之内

旧福山城下の二上り踊りは，1928（昭和３）年以降，団扇に代わって四ツ竹を手に持つようになりました。

802 神辺二上り踊り

指定種別：市無形民俗文化財
所在地：神辺町

神辺二上り踊りは，四ツ竹を持たず，団扇を持つことが特徴です。

ひんよう踊り

この踊りは「花踊り」とも「きりこ踊り」とも呼ばれ，旧沼隈郡内の津之郷・赤坂・神村・本郷・金江を中心に，旧盆に，氏神神社で豊作や氏子の無病息災に感謝して踊られたものです。踊りの様式は，竹の先に御幣を付けた梵天を持つ人を中心に，キリコと呼ぶ上部を花で飾った灯籠を頭に載せた（あるいは手に持った）踊り子が外側を輪で囲み，太鼓の拍子と音頭に合わせ「ひんよー」「ひんよー」と囃して踊るものです。記録から，少なくとも江戸時代中期頃には盛んに踊られていたと推察できます。

803 津之郷惣堂ひんよう踊り

指定種別：市無形民俗文化財
所 在 地：津之郷町

津之郷惣堂神社の秋祭りで奉納されています。

804 ひんよう踊り

指定種別：県無形民俗文化財
所 在 地：本郷町

本郷八幡神社の祭礼で奉納されています。